

日本都市社会学会ニュース

NO. 118 (2021. 4. 1)

事務局：〒192-0397 東京都八王子市南大沢 1-1
東京都立大学 都市環境学部 都市政策科学科 山本薫子研究室内
e-mail:usocio@urbansocio.sakura.ne.jp fax:042-677-2352
(振替口座：00140-4-703976) URL：http://urbansocio.sakura.ne.jp/

日本都市社会学会 第39回大会

今年度大会のオンラインでの開催について

会長 玉野 和志

昨年来のコロナ禍の中で、われわれ日本都市社会学会でも、必要最低限の内容に縮約した上で、オンラインでの大会の開催を余儀なくされました。次年度大会については、なんとか参集型での開催をと考えておりましたが、先の理事会で検討した結果、今年9月の大会についても、オンラインでの開催を早めに決定するのが得策との判断に至りましたので、会員の皆様にお知らせいたします。なにとぞご理解のほど、お願い申し上げます。

さて、次回大会をオンラインで行うに当たって、いくつか確認したいことがございます。まず、内容については、前回とは異なり、できる限り通常の大会と同じように実施したいと考えております。また、大会開催校についても、昨年度からお願いしておりました龍谷大学に、スタッフとして加わっていただくことで、あくまで龍谷大学での大会の開催としたと思います。また、今年度大会では理事選挙が予定されています。役員選出規程では総会での開票までの間に、投票所で投票を行うことになっていますが、オンラインでの開催ということで、前もって郵送で投票をいただくしかないと判断しております。そこで、大会前に郵送で投票を行っていただき、当日総会場でそのような手続きについてご了承を得た上で、選挙結果の報告をお許しいただければと思います。詳細については、次回理事会で決定し、お知らせする予定です。異例の事態ゆえにどうしても特例的な扱いが生じてしまいますが、なにとぞご理解のほど、重ねてお願い申し上げます。

いずれ何らかのかたちで会員が実際に参集し、親交を深める機会が持てることを祈念しております。

歓迎の言葉

妻木 進吾 (龍谷大学)

日本都市社会学会第39回大会(2021年9月11日(土)・12日(日))は、オンライン開催となり、龍谷大学・深草キャンパスにご来校いただく形での開催は実現できなくなりました。

完成間もない京都・伏見の新校舎にお越しいただき、オープンしたばかりの素敵なレストランでの懇親会を実現できなかったのは残念ですが、充実した大会となるよう、スタッフとしてお手伝いしたいと思います。

オンライン大会に多くの会員の皆さまが参加され、活発な議論が交わされますようお願いいたします。

第39回大会時の総会で役員選挙を実施予定です。大会がオンライン開催となったため、総会時に対面での投開票が実施できません。そのため、投票は郵送で行い、総会前に選挙管理委員会が開票、集計を行い、総会で結果報告をする予定です。具体的な実施方法については2021年6月開催予定の第3回理事会で審議、決定します。

なお、「日本都市社会学会役員選出規程」では、「1. 日本都市社会学会の会長、理事、監事は、大会初日の受付開始から総会での開票直前まで設置される投票所で行われる投票結果にもとづいて選出される。」と規定されていますが、今回は以上の手続きを実施することができません。次回役員選挙を特例として郵送で実施することについては、第39回大会時の総会で追認をお諮りする予定です。

5月に役員選挙の選挙人名簿を会員皆様に送付予定です。記載内容に間違いがないか、ご確認ください。

(事務局担当理事 山本薫子)

大会次第

期 間： 2021年9月11日（土）、9月12日（日）

会 場： ビデオ会議システムZoomを使ってオンラインで行います

会議室URL、パスワード等は大会前日までにご連絡します。事前にZoomのアプリをPCまたはタブレット端末、スマートフォンなどにインストールの上、接続してください。アプリのダウンロードはこちらから<https://zoom.us/download> 懇親会は実施しません。

大会企画（企画委員会報告）

2020年12月19日（土）と2021年2月14日（日）に、それぞれ第3回と第4回の企画委員会をzoomミーティングで開催しました。

次回大会もオンライン開催ということになりました。昨年度は経験のない中での緊急避難的なオンライン開催でしたが、今回は状況は異なります。オンラインであることの長所を活かせるような大会になることを願いつつ、いくつかの企画の準備を進めています。

大会のひとつの核となるのはシンポジウムです。テーマは「日本の都市と「近隣効果」」です。主にアメリカで議論されてきた近隣効果を、日本の都市に引きつけて捉え直していきます。日本の都市社会学に新しい1ページをつけ加えるシンポジウムになるものと期待しています。

ラウンドテーブル「国境を越えた調査の実践」は、昨年度大会で開催を予定しつつ延期していた企画です。オンラインでいかに「ラウンドテーブル」を実現するかは少々の工夫が必要かもしれませんが、誰もが気軽に議論に加われるような場になることを目指します。この企画が想定する主役は大学院生などの若い世代です。ぜひご参加ください。

さらにもうひとつ、公募型のセッションとして、テーマ報告部会「コロナと都市」を開催します。疫病と都市社会の関係がいかに重要であるかは論を俟ちません。この1年間に様々な場所でこのテーマが論じられるようになりましたが、あえて本テーマ部会を開催する固有の意義は、会員の皆さんに発表の機会を開いていることにあるかと思います。応募をお待ちしております。

なお、コロナ下でのオンライン開催ということで、これまでに学会ニュースなどで予告してきた企画内容に、若干の変更をせざるを得なくなりました。楽しみにして下さっていた方にはお詫び申し上げます。

(企画委員会委員長 松尾浩一郎)

【趣旨】

昨年を除くここ数年の大会では、会員、特に若手会員の研究交流と多様な論点を創発的に生み出すことを目的として、「ラウンドテーブル」を企画してきました。今大会ではオンラインで、「国境を越えた調査の実践」（下記参照）をテーマに、再び開催の運びとなりました。

論点提示のため、テーマに関して 5 分程度の「話題提供」をしていただける会員を募集します。レジュメや報告資料の準備は基本的に不要ですが、必要に応じてパワーポイント、紙媒体の資料等を提示していただくことはかまいません。特に「フィールドを耕し始めた」若手研究者の方に話題を提供していただき、世代を超えて意見・情報交換できればと考えています。

なお、自由報告部会に登壇予定の方も話題提供者になれることとします。ただし、自由報告部会での報告と同じ内容のトピックでのエントリーはお控えください。また今回は、話題提供者には大会終了後、その内容を 600～800 字程度にまとめていただき、大会報告号のニュースレター（例年、11 月に発行）に掲載する予定です。

応募方法：**2021 年 6 月 4 日（水）18 時必着**。件名に「ラウンドテーブル申し込み」と明記の上、氏名、所属、連絡先、発言予定のトピックをメールでお知らせください。
申し込み先：日本都市社会学会事務局（usocio@urbansocio.sakura.ne.jp）

・テーマ「国境を越えた調査の実践」（大会 1 日目 [9 月 11 日]）

今年度のラウンドテーブルでは、国境を越えて行われるフィールドワークの実践に焦点を当てる。グローバル化が進む現在、日本の都市社会学の射程はもはや日本国内だけに収まらなくなりつつある。とはいえ、研究者が海外調査の具体的な経験を共有し、そこから学ぶ機会といえば、個人的な付き合いか、それぞれの著作を読む程度に限られてきた。日本から海外へ、海外から日本へと、自身にとって未知の世界に入り込んでいくとき、調査者を待っているのはどのような困難と発見であろうか。また、様々な文化の違いに戸惑い、マジョリティ/マイノリティという日頃の立場が逆転する経験の中で見えてくる知見とは何か。本ラウンドテーブルでは国境を越えたフィールドワークの経験を持つ方々から話題提供を受け、海外調査ならではの魅力と可能性について広く議論を行ってみたい。海外調査経験者および留学生など日本で調査する海外研究者による自由な意見交換を通じて調査のノウハウを共有し、若手研究者に海外研究の魅力を伝えるとともに、人類学が主流になっている海外調査における社会学固有の役割を確認するのが今回の目的である。

なお、提供していただく話題はコロナ禍による状況変化の前の内容で構わない。この 1 年間に研究が受けた影響や対応の工夫も盛り込むことも、もちろん歓迎である。（企画担当委員 金善美・西野淑美・横田尚俊）

【テーマ報告部会】 コロナと都市

【趣旨】

Covid-19 のパンデミックが世界の都市を覆っています。この感染症流行の影響は当初先行きが見えませんでした。その後の展開の中で、医療・福祉、観光・自営業者層、教育、（非）移動と孤立、非正規労働、専門家・市民社会組織の役割、都市の公共空間、イベント、東京オリンピック、都市政治、自治体の行財政など、都市社会学とかかわる領域に広範な影響を与えることが明らかになってきました。

一方、日本ではスペインインフルエンザ以来の本格的な流行で、通例の「都市問題」とも「災害」とも単純に言い切れない出来事をどうとらえるか、研究視点の整理から必要な状況があります。阪神・淡路大震災や東日本大震災のケースに比べると、およそ影響の大きさに対して、社会科学系学術団体の取り組みも、地味に推移しているように思われます。

こうした状況を踏まえ、まずは前提となるファクトの共有、また研究の視点、方法論の提案などを含め、初期的な議論を交わすための「場」を設けます。

具体的には、上記の趣旨をもとに、報告を募り、3件以上の応募があれば独立したセッションとします（大会1日目[9月11日]を予定）。それを下回る場合は自由報告に組み込みます。

部会の設定上、「コロナと都市」にかかわるものであれば、対象・テーマなどは広くてかまいません。応募をお待ちしています。

- ・**申し込み締切：2021年4月23日（金）18時（必着）**。件名に「テーマ報告部会申し込み」と明記の上、氏名、所属、連絡先、報告題目をメールでお知らせください。
- ・**報告要旨の締切：2021年6月4日（金）18時（必着）**。
- ・**申し込み先・報告要旨送付先：日本都市社会学会事務局**（usocio@urbansocio.sakura.ne.jp）
- ・報告要旨は自由報告部会と同じ形式で作成してください。（50字×20行以内）。ファイル名は「39theme***」（***の部分は名字のローマ字（例えば39themematsubayashi）としてください。メールの件名をテーマ報告部会要旨送付であることがわかるものにしてください（例えばテーマ部会報告要旨送付/松林）。
- ・希望者の人数によっては、自由報告に回っていただくことがあります。
- ・本件に関する情報は日本都市社会学会のホームページにアップされますので、ご覧ください。またお問い合わせはテーマ報告部会企画委員・松林秀樹までお願いいたします（matsubayashi@hiu.ac.jp）。

（企画担当委員 山本唯人 松林秀樹 松尾浩一郎）

【シンポジウム】 日本の都市と「近隣効果」 （大会2日目 [9月12日]）

【趣旨】

アンドリュー・アボットがシカゴ学派社会学の特徴は時間・空間の「文脈」を重視したことだと論じているように、「近隣の文脈」が犯罪や健康、教育達成など個人のアウトカムに影響を及ぼすとする近隣効果研究が注目されている。こうした議論は、W・J・ウィルソンの貧困の集積論から始まりR・ Sampsonの近隣効果論にいたるまで、現代シカゴをフィールドとした都市社会学、貧困・犯罪研究をきっかけとしているが、現在では社会学だけではなく、地理学や犯罪学、経済学など学際的に広がっている。またアメリカだけではなく、ヨーロッパの都市を対象とした研究もすすんでいる。

C・ショウとH・マッケイの地区分析にたいするロビンソンの生態学的誤謬批判は、シカゴ学派が国勢調査データをもとに分析を行ってきたことにたいするものであったが、近年では、彼らの関心はそもそも個人にあるのではなく、地域の「文脈」の効果であり、それこそがシカゴ社会学の方法論的な特徴であったとして再評価がすすんでいる。その点で、Sampsonの『グレート・アメリカンシティ』（2013）の研究が代表するように、現在の「近隣効果」研究はシカゴ学派以来の問題意識を正当に受け継いでいるといえるだろう。

マルチレベルモデルや因果推論など近年の分析手法の発展によって、近隣効果に関する研究の蓄積はこの約十年のあいだに膨大なものとなったが、日本での研究は緒についたばかりである。日本の都市でもこの近隣間格差など「近隣効果」を実証することはできるのだろうか。また近隣効果のメカニズムを明らかにするためには、計量モデルだけでは十分ではなく質的な研究も必要なのだろうか。またこれまで都市社会学で蓄積されてきたネットワーク論やソーシャル・キャピタル論、コミュニティ研究との関係をどのように考えたらよいのだろうか。

近隣効果とはどのようなものか。近隣効果研究にはどのような可能性があるのだろうか。本シンポジウムでは、隣接分野の第一線の研究者の現状報告を伺いつつ、日本の都市社会学での展開可能性について議論したい。

（企画担当委員：川野英二、木田勇輔、妻木進吾、原田謙）

第 39 回大会の自由報告を募集します。どうぞ奮ってお申し込みください。なお、自由報告の申し込みと同時に報告要旨を提出していただき、7 月発行の「学会ニュース」（第 119 号）に自由報告要旨を掲載することになっております。自由報告を希望される会員は、下記の要領で、自由報告の申し込みと自由報告要旨の提出を同時に行ってください。

(1) 自由報告の申し込みおよび報告要旨の提出方法（締め切り：2021 年 6 月 4 日（金）18 時 必着）

次の①～⑤を A4 サイズ 1 枚に記し、保存した文書ファイルを、6 月 4 日（金）18 時までに学会事務局（usocio@urbansocio.sakura.ne.jp）宛に、E-mail に添付してお送りください。添付ファイルは、テキスト形式または「Microsoft Word」形式、ファイル名は「39jiyu_***」（***は報告者の名前をローマ字で入れる）としてください（例 39jiyu_yamamoto）。提出後の内容の修正は受け付けません。

- | |
|---------------------------------|
| ① 報告タイトル（仮題は不可） |
| ② 報告者氏名・所属（共同報告の場合は登壇者に○） |
| ③ 報告要旨（50 字×20 行以内を厳守） |
| ④ 発表時に使用する機器 |
| ⑤ 連絡先（郵便番号・住所・電話番号・E-mail アドレス） |

申し込み締め切りを過ぎたものについては、一切受け付けないことになっています。メンテナンスなどのためにサーバーが一時不通になることもありますので、くれぐれも余裕を持って申し込みされるようお願いいたします。

(2) 注意事項（必ずお守りください!）

- ・ 共同報告の場合、登壇者は日本都市社会学会の会員に限ります。なお、未入会の方が報告を希望される場合は、申し込みを行う前に、入会の手続きをお済ませください。入会手続きについては、学会ホームページをご覧ください。
- ・ 報告要旨は、「報告の要旨」を会員に事前にお知らせすることを目的としておりますので、図表は入れ込まず、文章のみで作成してください（学会ニュース 1 ページに 2 つの報告要旨を掲載する予定です）。
- ・ この要領に反し、本文が 1 行 50 字で 20 行を超えていたり、図表が入っていたりする場合は、数日以内で訂正をお願いすることになります。また、期限内に訂正されない場合は、報告を放棄されたものとみなしますので、ご注意ください。

<自由報告申し込みと報告要旨原稿の提出方法>

締 切	: 2021 年 6 月 4 日（金）18 時 必着
申込み・報告要旨原稿提出の方法	: E-mail による
申込み・報告要旨原稿提出先	: 学会事務局 usocio@urbansocio.sakura.ne.jp

（事務局担当理事 山本薫子）

会員の皆さまへのお知らせ

コロナ禍にともなう院生会員・常勤職にない会員の学会費減額について

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受けて、大学院生や常勤職にない会員が経済状態の悪化によって研究継続が困難になる可能性に配慮し、理事会では2021年度の学会費について減額を決定いたしました。減額を希望される方は申し込みフォーム (<https://forms.gle/G4V9r4V6RbnKg1HB8>) からお申し込みください。QRコードは以下掲載の通りです。

対象：学生会員（日本学術振興会特別研究員は除く）および常勤職にない会員（退職者を含む）

金額：一般会員 6,500円を4,000円に減額。学生会員 4,000円を2,000円に減額。

申込締め切り：2021年12月末



入会金および2020年度以前の年会費は減額の対象になっていません。

(事務局担当理事 山本薫子)

将来構想基金による国際学会参加等支援の選考結果

2020年度の将来構想基金による国際学会参加等支援の募集（2021年1月末申し込み締め切り）に1件の応募がありました。2021年2月21日開催の第2回理事会で応募書類を確認の上、審議した結果、細淵倫子会員による海外雑誌への投稿論文（投稿先「Masyarakat」）に対する英文校閲費への支援を行うことが決定しました。

2021年度の将来構想基金による国際学会参加等支援の募集は11月発行のニュースに掲載予定です。

(事務局担当理事 山本薫子)

理事会報告

2020-21年度第2回理事会が2021年2月21日（日）午後3時よりzoomにて開催されました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を踏まえて、第39回大会の開催方法について審議され、オンラインで開催することが決定されました。また、第39回大会の企画全体の準備状況（企画委員会報告）、年報39号の編集状況（編集委員会報告）等々について、各委員長・担当理事より報告がありました。そして、コロナ禍にともなう院生会員・常勤職にない会員の学会費減額、将来構想基金による国際学会参加支援等について審議がおこなわれ、それぞれ本ニュース掲載の内容のとおりとすることが決定されました。その他、学会ニュース118号の内容、入退会の承認について、それぞれ審議されました。

(事務局担当理事 山本薫子)

編集委員会報告

(1) 『日本都市社会学会年報』第39号の編集を進めています。特集は「アジアにおける都市下層の比較社会学」を予定しています。

(2) J-stage (<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jpasurban/-char/ja/>) で『日本都市社会学会年報』第36号（2018年発行）までが閲覧できます。学会WEBサイトにもリンクが貼られていますので、ご利用ください。

(編集委員会委員長 高木恒一)

編集委員会では、『日本都市社会学会年報』第40号(2022年9月発行予定)に掲載する「自由投稿論文」「研究ノート」「書評プライ」の原稿を募集します。会員諸氏の、奮っての投稿をお待ちしています。投稿を希望される方は、『年報38号』(2020年発行)に掲載されている投稿規定および執筆要項を遵守した原稿を作成のうえ、審査用原稿(3部)を2021年11月30日(消印有効)までに、下記の編集委員会事務局宛に郵送してください。なお、投稿資格のないもの、投稿期限を過ぎたものは一切受け付けられませんので、くれぐれもご注意ください。

〒171-8501 東京都豊島区西池袋3-34-1 立教大学社会学部高木研究室内
日本都市社会学会編集委員会事務局
E-mail:takagi@rikkyo.ac.jp

※次回大会での役員交代により編集委員会事務局は移転する予定です。それともない2021年9月以降は原稿提出先も変更となります。新事務局が決まり次第、学会のWebページやニュース等でお知らせします。それまでにご投稿いただいた論文等につきましては、次期編集委員会に責任をもって引き継ぎます。

(編集委員会委員長 高木恒一)

社会学系コンソーシアム報告

2021年2月23日(土)に、zoomにて社会学系コンソーシアムの第13回評議員会が、zoomウェビナーにて第13回シンポジウム「メディア学の使命——ジャーナリズム研究からプラットフォーム研究まで」がそれぞれ開催されました。

評議員会(30学会・60名の評議員で構成)では、2020年度の事業報告・決算報告、2021年度の事業計画・予算案に関する審議が行われ、いずれも異議なく承認されました。また、経済社会学会の新規加盟について諮られ、異議なく承認されました。

(社会学系コンソーシアム担当理事 山本薫子)

2020-21年度各種委員会構成(新規分のみ掲載)

[学会賞選考委員会] 委員長: 町村敬志

(事務局担当理事 山本薫子)

会員異動

新入会員(2021年2月21日理事会承認)

<東京都地区>

鈴木颯太(東京都立大学大学院)

退会(2021年2月21日理事会承認)

<東京都地区>

白井 恒夫

<近畿地区>

河野 健男

会員資格の喪失

田中 研之輔、谷 優希

転居先不明

瀬古 武志 (再掲)

(事務局担当理事 山本薫子)

学会事務局からのお知らせ

◆ 2021 年度 会費納入のお願い

学会費の振替用紙を同封させていただきました。2020 年度会費を納入していただきました会員の皆様、2021 年度 (2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日) の会費もできるだけ早めの納入をお願い致します。オンライン入金も可能です。

年会費は一般会員が 6,500 円、学生会員が 4,000 円となっております。本ニュース p6 掲載の通り、コロナ禍にともなう院生会員・常勤職にない会員の学会費減額を行っておりますので、該当する方はご利用ください。また、外国籍会員の場合、年会費減額の措置が適用される場合もあります。詳しくは、学会のホームページをご参照ください。

なお、2020 年度までの学会費をまだ納入されていない会員の皆様は、お早めに納入くださいますようお願い申し上げます。極力、全額の納入をお願いいたしますが、単年度分の振込につきましてもお受けいたしますので、是非とも納入して下さいますよう重ねてお願い申し上げます。継続して 3 年以上会費を滞納した場合、原則として会員の資格を失うこととなりますので (学会規約 12 条)、その旨ご注意ください。

本学会が利用しておりますゆうちょ銀行は、全国の金融機関 (一部を除く) との相互振込が可能です。他の金融機関から本学会の口座に振り込む場合は、以下の店名・預金種類・口座番号・受取人名をご指定ください。

銀行名..... ゆうちょ銀行	預金種類..... 当座
金融機関コード..... 9900	口座番号..... 0703976
店番..... 019	受取人名..... ニホントシシヤカイガツカイ
店名 (カナ) 〇一九 (ゼロイチキュウ店)	

◆ ご所属先等変更のご連絡のお願い

新年度より、ご所属先やご住所等が変更となる会員の皆様もおられるかと思えます。その場合は、事務局へメールにてご連絡くださいますよう、くれぐれもよろしくお願い申し上げます。

(事務局担当理事 山本薫子)